

令和7年度第1回石巻市総合計画推進会議 会議録

■日 時 令和7年7月1日（火） 10時～12時30分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数25名に対して14名が出席しており会議は成立

（委員1名が遅れて参加、最終的に15名が出席）

2 開会あいさつ

（齋藤市長）

委員の皆様には、日頃から本市の行政全般にわたり御支援と御協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、令和4年度に始まった本会議も4年目を迎え、本市の最上位計画である「第二次石巻市総合計画」を推進するため、今回は令和6年度の内部評価について、各施策の効率性や有効性を、市民目線はもとより専門的見地から、検証及び評価していただく、大変重要な会議となっております。

委員の皆様からいただく評価は、各施策の効果を適切に発現するための大変重要な手がかりとなります。本会議における検証結果を踏まえた施策の見直しを、現在策定中の後期基本計画の取組にしっかりと反映し、本市の目指す「ひとりひとりが多彩に煌めき共に歩むまち」の実現に向けて取り組んでまいりますので、是非、忌憚のない御意見を賜りたいと存じます。

結びとなりますが、委員の皆様におかれましては、引き続き、本市の発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、厳しい暑さに向かっていきます、くれぐれも御自愛の上、さらなる御活躍後健勝をお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

（副会長）

会長が欠席ということで、次回以降も欠席の可能性があり、代理で私が司会進行をすることになりました。よろしくお願いいたします。

2点申し上げます。1つ目は先ほど市長も申し上げましたように、この石巻市総合計画は、石巻市がどの方向に進んでいくかという根幹となる計画であります。前々回の会議から、委員の皆様の御意見をできるだけ多くお聞きしたいということで、このようなグループ形式の話し合いをすることを提案し、事務局の方で大変骨を折っていただき、それを実現させていただきました。限られた時間となりますが、ぜひ皆様の忌憚のない御意見をたくさん反映していきたいと思っています。

2つ目は、限られた時間となりますので、ここでの話し合いを大事にしながら、意見を集約していただき、もしも言い足りない部分があった際には委員評価表がありますので、そちらに記入していただくという進め方をして参りたいと思います。

皆さんよろしくお願いします。

3 議題

(1) 実績値の修正について(資料1：政策企画課)

実績値の修正及び目標値の変更について説明

(2) 総合計画推進会議における評価・検証について(資料2：政策企画課)

内部での評価方法、外部評価として委員が評価する2つの視点、会議の流れについて説明

(3) 第2次石巻市総合計画の令和6年度達成状況について

(資料3，資料4：政策企画課、各担当課)

【内部評価結果の昨年度との比較】

昨年度の評価結果と今年度の内部評価結果について政策企画課から説明

【第1章 第1節～第6節】

(1班・委員)

うちの班では全体として内部評価は整合しているのではないかという結果でした。個別的に1つだけ申し上げるとすると、災害メールにつきまして、これはメール配信サービスを増やすことが本当に重要なのか、それとも本当の目的は「情報を伝える」ということであれば、LINEとか別のソフトもあったりするので、もう少しそのあたりを調整することの方が重要なのではないか、という話が出ました。

(危機対策課)

お話いただいた通り、今回新たに741件の新規の登録がありましたが、これは全てLINEの登録となっております。すでに登録が済んでいる、他の防災関係アプリ等を入れているという方が多かったというところが、今回、昨年度に比べ数字が減った理由になりますが、既に登録済みの人が、市のLINEに入っていないことが悪いわけではありませんので、何らかの形で情報を得ているという方がだんだん増えてきているというところで、LINEの他に、様々な形で多重に情報発信していくというところに、努めていきたいと思います。

(2班・委員)

2班で話をしたのは、「未来につなぐ震災伝承の推進」ということで6節に関してです。震災遺構来訪者数について、かなり訪問した方少ないと感じました。先ほど、来訪者数の報告がありましたが、もし分かるのであれば、石巻市内の小中学生の訪問者数、

それ以外の小中学生の訪問者数について、教えていただきたいと思います。なぜかと言いますと、東日本大震災で一番大きな被害を出した石巻市ですので、今の子供たちにきちんとその様子を伝え、それを伝承していくという使命を持たせたい、という考えから、今後も増やす方向で検討して欲しいという意見が出されました。

見学した小中学生がその後、見学した内容等を授業でどのような形で活用しているのか、ということがもし分かるのであれば、教えてほしいです。

(震災伝承課)

小中学校の来訪者ですが、これからお知らせする数値は予約ベースとなっており、予約なしで来訪いただいた分は、申し訳ありませんが実績としてはございません。まず門脇小学校ですが、令和6年度に学校関係団体として予約があった分が149件で7,896人となっております。次に、大川小学校ですが140件で6,496人となっております。そのうち、市内の小中学校の来訪が、門脇小学校では小学校13校、中学校4校、合わせて893人に来訪いただきました。大川小学校では小学校4校、中学校1校、合わせて157人という結果となっております。

来訪後につきまして、見学内容をどのように活かしているのかというところについては、教育委員会側とその辺の共有ができておりませんので、内容については把握しておりません。しかし現在、石巻市内の小中学校では防災教育としまして、「防災教育副読本」というものを用意し、小学校1年生から3年生版と、小学校4年生から6年生版、それから中学校版という3種類の年代に合わせた副読本を作り、それぞれの年代で、学習カリキュラムの中に防災教育を組み込み、震災だけではなく「災害学習」というものを学んでいるようです。そのような中で、学校側でもバス等の交通費も含めた様々な事情がありまして、実際に来訪を見合わせている学校もございますが、こちらとしましては、やはり実際に目で見て、いろいろ分かる部分もあると思いますので、震災遺構をぜひ活用していただきたい旨、各学校の校長会等の集まりの中で説明を行って参りたいと思っております。

(副会長)

ありがとうございました。すごく大事なことなので、教育委員会等と連携をとりながら、実効性ということで進めていければ、なおよろしいかと思います。

(3班・委員)

質問ですが、第1節の細節2「地域の均衡ある発展を図る」というところですが、こちらの課題の検討件数ということで18件という実績になっておりますが、説明にもありましたとおり地域でばらつきがあるということで、聞いた結果が聞きっ放しになっていないか、という点がちょっと心配だというお話が班内で出ました。

(地域振興課)

これまでは問題提起について各地区からあがっても、各総合支所で消化するような仕組みになっており、件数自体は合併当初から比べると減少傾向となっていましたが、昨年からは問題提起だけではなく地域活性化のために取り組むべき問題について積極

的に問題提起していきましようということで、市長の方に提案するところまでやることを目標に、各地区において新たに活性化に向けたお話が進んだ背景があり、検討件数が令和6年度実績として増えたという状況となりました。傾向としては、とてもいい傾向だと思っております。

(3班・委員)

もう1つだけ、第4節の細節1「審議会・委員会等に占める女性委員の割合」についてですが、こちら女性人材リストの活用ということをいつも話されていますが、全然、数値が伸びていないことが少し気になっています。同じ班の女性委員も実際、女性人材リスト自体を知らないということで、この女性人材リストの活用もいいのですが、新しい方達をどんどん入れていく他の仕組みみたいなものを作りつつ、女性参画の方を推進していただければなと思いました。内部評価もCということで、もう少し良くなるように、何か仕組みを作っていただければ、というふうに思います。

(地域振興課)

現在、石巻市では63の委員会がありますが、女性委員40%以上を達成している委員会は環境、教育、保健福祉関係が多くなっています。農業、水産業関係や専門資格が必要な委員会等については、どうしても女性委員の割合が伸びないというところがあり、イクボス研修や女性活躍関係の研修等、複数の研修を一般向けに行っている事業でもあるので、周知の方も頑張っているところですが、成果に結びついていない状況であります。

また女性活躍推進委員については、このような会議の場や研修があるごとにお声掛けさせていただき、ホームページ等でも随時募集はしておりますが、今後も引き続き周知について一生懸命やっていきたいと思っております。

(副会長)

ありがとうございます。新たな委員の開拓ということも必要だと思います。意見として参考にしていただきたいと思います。

(4班・委員)

今の3班のお話の続きになります。私はもともと男女共同参画については石巻市はできている方だと思いますよ、と伝え続けている立場でございます。それはなぜかというと、第4節の細節2の夫婦ともに育児に参画しているかという点に関しまして、年代によってばらつきがあり、例えば、現在、保育園とか小学校にお子さんを預けているようなご夫婦世代、いわゆる30代40代の世代の方々は、皆さん協力的でお迎え等もお父さんが来ますし、本当に男女共同参画ができていると思います。ただ、今でも男女共同参画をずっと言い続けている世代というのは、50代60代70代の少し上の先輩方が多いと思われます。その意識の感覚がまるっきり違っておりますので、石巻市全体がそんなに悪くないという風に評価をしておりますが、達成率については、最初の基準値自体が低いのではないかと私は思います。そういったことも含めて、今後見直しが必要かなと思った次第です。

それから女性人材リストに関しまして、例えば小学校の校長先生や教頭先生を引退された方とか、市役所の課長、部長という役職から引退された女性の方々等、結構いると思います。他にも、元保育園の先生、銀行マンの方等、女性管理職を引退された方々が町内会でも結構活躍されています。それからNPO団体のリーダーも女性が多いです。そういったことを考えたときに、女性人材リストの見直しについて、早急に対応していただくとともに、その辺の情報収集をしっかり行うような仕組みを作っていただくと、もっと幅広く多くの方々に参画いただけるのではないのでしょうか。女性の皆さんもどうしても現役世代は、このような市の会議とかは平日の日中に開催されるので、参加は難しいと思います。そういったことを踏まえると、女性管理職として活躍された方々に、もうちょっと広く声をかけられるような仕組みを、ぜひ行っていただけたらと思います。質問というよりも、参考意見とさせていただきます。

(副会長)

貴重な御意見いただきました。その通りだと思います。勤務している方々は職場の環境もありますよね。これも市全体として、総合的に考えていく必要があるかと思います。例えば、働いている方の場合、職場を欠席してこういう場に出るっていうことは、至難のわざかなと思いますが、若い30代40代の働いている皆さんの声も聞きたいというのであれば、今後、裏付けも考えていく必要があるかもしれません。貴重な御意見、ありがとうございました。

(地域振興課)

女性人材リストについて、実は年配の方多くなっている状況ではありますが、直近3年間で新しい人も入ってはいるのですが、辞める方もいるということで、登録人数が67名から変わっていないような状況であります。また、登録する上で、教育部門や福祉部門等これまで従事してきた部門ごとにチェックマークがついてありますので、登録状況は確認できるようになっております。これからも若返りを図りながら、少しでも増やしていけるような啓発活動を進めていきたいと思います。

【第2章 第1節～第3節】

(2班・委員)

ごみの減量化・リサイクルについて確認ですが、廃プラスチック資源の循環利用推進のために、令和6年度は中間処理業者を決定し、事業の進捗を図ることができたということです。現在、令和8年度から、プラスチックの分別収集とか再資源化を行うような形で計画されていると思うのですが、実際に令和8年度からしっかりプラスチックごみ等を回収し、うまく資源の循環を図れるような計画ができているのかどうか、お聞きしたいと思います。

(廃棄物対策課)

プラスチックごみの処理方法につきまして、収集したプラスチックごみの中には不純物等が入っておりますので、それらを分けた後の純粋なプラスチックごみだけを梱

包し、専用業者に出荷いたしまして、その後、駐車場の車止めとか等にリサイクルするという流れになります。今のところ令和8年度の後半を目標に、まずは手法の決定や出前講座、その他、集団説明会等を開催する予定となっております。

(3班・委員)

第3節の細節2「危険ブロック塀除却等事業書生件数」につきまして、達成度dですが、年々助成件数が減ってきているということで、全体的に何件ぐらい残っているのか知りたいと思います。あと基本的に今残っている方々は除却等の改修はできないのではないかと思います。そういうことも含め、現状、何件ぐらい残っているのか聞きたいということです。

(建築指導課)

令和元年度に石巻市内の道路沿いの高さ1メートル以上のブロック塀について、離島も含めて全域の調査を行いました。調査した件数は16,703件、それらをランク分けしまして、「問題なし」、「要注意」、「要改善」または危険性が一番高い「緊急改善」というような形で、6段階に分けて評価しております。

助成制度につきまして、除却補助金額は1メートル当たり8万円、または除却費用かける3分の2で算定した額のいずれか低い額で上限額を30万円としております。また、除却後に新しく軽量のフェンス等を設置するのであれば、それについても助成費を出しております。1メートル当たり8万円、または除却費用かける3分の2で算定した額のいずれか低い額で上限額が10万円となっております。さらに、宮城県の方から加算金といたしまして、スクールゾーン内の通学路に対しても限度額7万5千円を出しているというような状況です。

(副会長)

ありがとうございました。危険ブロックの総数はいくらになりますか。

(建築指導課)

危険ブロックは調査した件数が先ほどお話ししました16,703件でして、そのうち問題なしというのが1,700件ほどございます。要注意、要改善等改修が必要なものについては約15,000件その当時としてはありました。

(副会長)

現在、何件ぐらい残っているのでしょうか。

(建築指導課)

現在ですと補助実績ベースになりますが、令和元年度から令和6年度まで584件ほど補助実績がありますので、改修が必要なものについては14,000件くらい残っているような状況と思われます。

(副会長)

わかりました。まだまだ努力しなきゃいけない危険な状況ですね。

(4班・委員)

第1節の細節3「再生可能エネルギー等を有効活用する」について、太陽光パネルの

設置について質問させてください。現在いろんなところに太陽光パネルが設置されている状況ですが、その中で山を崩したり植林部分をとってそこに設置されていたりしています。森林保全や環境保全との関わりの中で、本当にそこら辺の安全が担保されて実施されているのか、市としては審査基準、設置基準等があつて太陽光パネル設置の許可を出しているのか、そして設置された後に土砂災害にならないよう確認等を行っているのか、どこまで市で把握し整理をされているのかをお聞きしたいと思います。

(環境課)

太陽光パネルについて、事業者が設置する場合を御質問されていると思いますが、市としては自然との調和に関する条例がございまして、その中で「抑制区域」というのを定めております。例えば、土砂災害の区域であつたり、自然公園に該当する区域であつたりとか、様々な項目がありますが、その様な区域にかかる場合は、市に対し届出を行うという制度になっています。一応、その様な部分をクリアした上で設置していただいているという状況になっております。

しかし、設置後に市の方で状況を把握しているのかというところにつきましては、正直なところ、市の方で検査に行く等その様なことは行っておりません。設置後は、事業者の自主的な取組みに委ねて、お任せしているような状況となっております。

(4班・委員)

設置された場所の地域住民から苦情とか、困っている等の相談事とかは市の方に連絡はきていないのでしょうか。

(環境課)

すでに設置してある太陽光パネルに対しての苦情はほとんどないです。たまにあるのが、例えば草がぼうぼうに生えているとか、そのような連絡がきた場合は、事業者に対し指導を行います。

(副会長)

現在は苦情が無くても、今後心配されるケースもありますので、委員の意見として押さえていただきたいと思います。

(1班・委員)

大きく2つありまして、1つ目が第2節に関してですが、ごみの減量化は非常に重要ですが、その源流として、例えば食べ物に関するごみであれば、市民だけでなく企業とか小売店等そういうところもあるので、そこをどうするのかということが重要なポイントなのではないかという話が出ました。あとは、再資源について、スーパー等で回収しているものはこの数値に入っているのか、という質問も出ました。

それから2つ目は第3節細節3の「公営住宅の住みかえ」に関してですが、数値でいうと目標がいまいち達成されていないという状況でした。一方で、例えば鮎川に住みたいって言っていた方が、最終的に渡波の方に移らざるをえなくなった、という話あったということで、どこに住みたいのかという話とリンクする話なので、この数値目標の達成だけを追い求めるのではなく、その辺りのバランスをとりながら考えていくことが

重要なのではないかと、という意見が出されました。

(廃棄物対策課)

民間企業等のごみについてですが、確かに食べ残しとか食品ロスの問題がありまして、議会でも再資源化・堆肥化というような意見がよく出されております。いずれは当然取り組むべき問題ではありますが、まずはプラスチックごみの再資源化を最優先にしております。ゆくゆくは有料化という話も国から求められておりますので、そちらも含めて、民間企業等のごみについて、市として今後検討していく必要があると考えております。

また、民間で独自に集めている資源物についてですが、市のリサイクル率はあくまで市の集積所から集める、もしくは廃品回収で集めるものを統計として計上しておりますので、民間から出る資源物分も含めるような仕組みにはなっておりません。ただ、どのぐらい集めているのかということで、市内のスーパー等の店頭回収の実績について、一応、参考値として集めております。ただ、それは市のリサイクル率には含まれていないという状況になっております。

(住宅課)

市営住宅の移転計画につきましては、個別の面談を行いまして、事業に関する説明を行うことを基本に進めているところであります。今後も、丁寧な説明を基本としながら進めていきたいと考えております。今お話にありました、御希望のところになかなか住めない方もいるということで、残念ながら抽選に落選されてしまった、という方もおります。このような状況を踏まえまして、「マッチング制度」というものを令和6年度から導入しております。この制度は、希望の団地に空きが出た場合、一般募集を行う前に、移転対象の方については、先に抽選などの機会を提供させていただくという仕組みになっております。可能な限り御希望の団地の方に移っていただけるような手法を導入していますが、移転先の人気は偏っている傾向もありますので、移転対象の方々の中で重複してしまえば、どうしても抽選ということが発生してしまいます。そのような方に対しては、次に空きが出たときにまた抽選の機会を確保できるような取組をしているところでございます。

【第3章 第1節～第5節】

(3班・委員)

1つ目が子育て支援に関しまして、私自身がちょうど子育て世代になりますが、実際に子を産んだ方から話を聞くと、石巻市は子育てに対するケア等しっかりしていると感じました。噂に聞くと、他の地域の方が良いみたいなことを聞いていましたが、実際に産んでみたら石巻市もよかったよ、という声がよく聞こえてきます。きっと、もっといろんな形で広報等の周知活動を行えば、今から産む人たちにもそういう好印象を与えることができるのではないのかな、と思います。

あともう1つが、第3章「生きがいを持つ」ということで、高齢者とかは特にこうい

うサービスとか、団体の活動とかを受けられるような状態になってはいるのですが、出てこない人達に対するフォローがやっぱり大事だと感じました。出てきてくれる人達は何度も何度も足を運んでくれると思いますが、出てこない人達に対して、どのようにフォローしていくのかというところに、もう少し重点を置いて欲しいというのが意見として出ました。

(介護福祉課)

出てこない方々をどうやって呼び込むかというところですが、例えば介護福祉課で行っている「生きがいデイサービス事業」等は、家に閉じこもりがちな高齢者の方を対象にした事業でして、そちらも展開しております。今後も、包括支援センター等と連携しながら、参加を呼びかけていきたいと思っています。

(子育て支援課)

子育て支援に関しまして、我々も周知は大事だと考えております。現在、子育て応援アプリ「ISHIMO (いしも)」を通じて、登録いただいた方々へ様々な情報を送らせていただいているところです。また、ホームページについてですが、今まで複雑な構成で分かりづらいという御意見もちょうだいしておりましたので、今年の4月から「石巻市子育てナビ」というポータルサイトを新たに立ち上げました。目的別から検索したり、子供の年齢別で検索したりという形で検索しやすい内容にリニューアルをさせていただきました。周知についてはこれからも勉強して、もっと良くしていかなければと思っています。

(4班・委員)

第1節細節2の「子供を産み育てやすい環境づくり」の部分ですが、「いっしょISSYO」について、子ども達がお母さんと一緒に来て楽しそうに遊んでいる姿を拝見しております。こちらの利用率に関しても、非常に充実していると思いますし、場所も駅前ということで車で行きやすいところにあって、大変活用されているなと思っておりしました。

その他、保育所の統廃合、こども園への移行ということで、石巻市も積極的に行い民間への移行も随分進んだと思いますが、例えば、わかくさ保育所が閉鎖されて、その近くに大変大きな保育園ができましたが、石巻市の最大の問題である少子化に対して効果が得られるようなことがあれば、教えていただきたいと思います。

(子ども保育課)

お話がありました通り、鹿妻保育所の近くに新しく民間で建てた保育園がございます。これまでの公立の良さを引き継ぎながら、民間事業が保育を担うというところが一番の強みかと思います。わかくさ保育所の方も同事業者になりますが、民間として開園していただきましたので、今後も効率の良さと、民間の良さをうまく取り入れていただきながら、保育の事業に活かされればと考えております。

(1班・委員)

子育て支援の部分に関してですが、市の取組について先ほどもこういう取組があっ

ですごくいいというお話が出ましたが、実際に産んだ後に知るといいですか、妊娠してから知るような制度がたくさんありまして、それはすごくありがたいと思いますが、これから結婚、出産をしていく、その前の段階でこのような制度を知る機会や、それこそ婚活の場で知ることができるような仕組み等、できることはたくさんあるのではないかなと個人的に考えておりましたので、意見として出させていただきます。

また、奨学金返還支援事業助成人数について気になった点があり、現状、どのように広報されているのか質問させていただきます。

(保健福祉総務課)

奨学金の広報について御説明させていただきます。まず市のホームページ、市報という形で市からの情報発信と、日本学生支援機構のホームページの方にも掲載しております。また、各種関係する団体ということで、例えば医師会や社会福祉法人等にもチラシの配布を行ったり、あとは県内の教育機関の方にチラシ等の配布をさせていただき、本支援事業を御利用いただきながら、石巻市内で働いていただけるような形を目指して、PRの方を行っているところです。

(1班・委員)

御回答ありがとうございます。やっぱり対象となる方の目に触れやすいのは、SNSもありますが、助成人数も少ないと感じますので、石巻市内の学校等にも出向いてPRするなどいろいろ取り組みながら、引き続き広報をよろしくお願いいたします。

(2班・委員)

第2節細節1の「高齢者の生きがいづくり」について、高齢者の生きがいの定義とは何なのかなと思いました。例えば、ステンドグラス講座を新たに開設しましたとありますが、これはどのような経緯で開設したのか、高齢者の生きがいというものを高齢者の方々に聞いて、こういうことをやって欲しいという要望が一番多かったものをやったのか。それとも何か他の理由でそれを選んだのか、そこを教えてください。

(介護福祉課)

まず高齢者の生きがいに関する数値につきまして、市民意識調査にて2点ほど質問をしております。1つは「普段の生活で生きがいを持っていますか」という質問に対して、60歳以上の方で持っていると回答した方が73.8%、持っていないと回答した方が22.8%、未記入の方が3.4%という結果でした。持っていると回答した472人に「どんなときに生きがいを感じますか」という質問をしたところ、多い順に、孫など家族との団らんのときが34.7%、そのほか、趣味やスポーツに熱中しているとき、友人や知人と食事、雑談をしているとき、仕事に打ち込んでいるとき等、このような回答になっております。

また、新規開設の講座については、高齢者の方々から意見をいただいて多かった事業を開設というわけではありません。年間を通して開設できる講師の方に御協力いただきながら実施しているものであり、今回のステンドグラス講座以外にも、その他全部で7講座開設しております。木工やつまみ細工等、いろいろな形で講座を開設している状

況でございます。

(2班・委員)

ありがとうございます。その講座ももちろん良いのですが、高齢者の意見を尊重すると「家族との団らんのとき」ということですので、そこに何かサポートが必要であって、そこを把握していないということであれば、そこにも光を当てることができれば良いのかなと思いました。

(介護福祉課)

今後検討していきたいと思います。

4 その他

政策企画課より、「委員評価表の提出について」説明。

(委員)

配付された事務事業評価の内容について、これを拝見すると、全部で200以上ある事業のうち、総合評価ランクというところを見ると、「推進」、「維持」、「改善」、「縮小」、「終了」となっていて、Cの「縮小」というのは実際に事業を縮小していくという解釈でよろしいのでしょうか、その見方を教えて欲しいです。

(行政経営課)

お見込みのとおり事業として縮小をしていくということになります。例えば、現在100%で実施している事業について、評価結果が「縮小」となれば、50%の内容まで落とす等、縮小という形で進めていく事業ということになります。

5 閉会あいさつ

(副会長)

本日は皆さま御苦勞様でした。12時半を超えるかと思いましたが、その前に終わることができました。次回は、よりスムーズに進めることができるよう頑張りますので、引き続き御協力よろしくお願いします。

石巻市総合計画推進会議委員人簿

No.	氏 人	所 属	備 考
1	阿部 隆	特定非営利活動法人 石巻市スポーツ協会	出席
2	阿部 貞子	牡鹿地域まちづくり委員会	出席
3	姥浦 道生	東北大学	出席（途中参加）
4	遠藤 一恵	石巻市女性活躍推進会議	出席
5	大槻 敏也	雄勝地域まちづくり委員会	欠席
6	大森 憲市	石巻市PTA協議会	欠席
7	尾形 輝雄	石巻商工会議所	出席
8	木村 亜梨沙	一般社団法人 石巻青年会議所	出席
9	木村 民男	石巻市子ども・子育て会議	副会長 出席
10	木村 美保子	特定非営利活動法人 いしのまきNPOセンター	出席
11	後藤 宗徳	一般社団法人 石巻観光協会	出席
12	加納 美雄	いしのまき農業協同組合	欠席
13	齋藤 義樹	特定非営利活動法人 いしのまき環境ネット	出席
14	佐藤 尚美	北上地域まちづくり委員会	欠席
15	庄子 真岐	石巻専修大学	会長 欠席
16	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	欠席
17	高橋 京子	石巻文化協会	出席
18	齋藤 光	河南地域まちづくり委員会	出席
19	千葉 照彦	桃生地域まちづくり委員会	出席
20	野呂 拓生	東北福祉大学	欠席
21	花岡 徹	石巻金融団	欠席
22	林 久善	社会福祉法人 石巻市社会福祉協議会	欠席
23	伏見 不二雄	石巻市町内会連合会（前会長）	欠席
24	三浦 悠	株式会社 街づくりまんぼう	出席
25	山内 隆夫	河北地域まちづくり委員会	出席

オブザーバー

1	畑山 作栄	国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所	代理出席
2	武田 健久	宮城県東部地方振興事務所	代理出席
3	鐺木 祐人	総務部総務課 法制企画官	出席

令和7年7月1日現在（敬称略）